

附属図書館長
立花 希一

利害なき友

この卒業アルバムを開く頃には、医療関係に従事しているひと、教壇に立っているひと、公務員、企業で働いているひと、次の飛躍のために充電しているひとなど、大学生活の枠を離れ、さまざまな道を歩んでいることでしょう。今後、ますます多くの人間と出会い、多様な人間関係を築いていくことになるはずですが、しかしながら、これからも友を得られるひとは幸せですが、社会での人間関係には利害が絡むことが多く、残念ながら、利害関係・損得勘定で行動してしまいがちです。

私事で恐縮ですが、かつて、高校時代の同級生のひとりの昇進祝いの連絡を受けたことがあります。そこには、仰々しく「〇〇氏を囲む会」とありました。すぐに私は次のような返信をしました。「連絡どうもです。〇〇は1年のときからの友人ですし、××になったとかなんちゃらではなく、それをきっかけに旧友がつどって飲むということであれば、喜んで上京し参加します」と。すると私の返信を読んだ本人から、「皆さま。立花さんのおっしゃるとおり囲む会なんかではなく、旧友の飲み会にしてくださいね。それでないと参加しづらいです。△△さん、よろしくお願ひします。ありがとうございます」との返信があった。このやりとりが、他の同級生からも共感されたのだと思います。正式の案内状は「〇〇氏を囲む会」ではなく、「旧交を温める会」になっていました。

大学までの友人は、社会におけるさまざまな利害関係を超越したところで成立しうる貴重な存在です。是非、利害なき友を大事にしてください。